

むらかみ 村上 せいげつ 霽月 (1869~1946)



俳人。実業家。伊予郡西垣生村(現、松山市)出身。本名は半太郎。愛媛県第一中学校(現、県立松山東高等学校)で学んでいたが、同校が廃校となるため明治19(1886)年に上京し、共立学校(現、開成学園)に入学した。その翌年、第一高等中学校(現、東京大学)に入学したが、叔父が急死したため退学し、家業の今出緋株式会社(現、今出緋株式会社)の社長となった。

俳句には、このころから関心を持つようになり、明治25(1892)年ごろから松山中学校の先輩でもある正岡子規や内藤鳴雪の指導を受け、子規を通じて夏目漱石とも親しくなった。明治29(1896)年、漱石、高浜虚子と共に神仙体俳句を創始し、子規は「明治二九年の俳句会」でその俳風を「雄健」と評した。明治30(1897)年、俳誌『ほとゝぎす』に参加、選者となり、今出吟社を結成するなど、郷土俳壇の重鎮となった。また、漢詩からの感興を俳句で唱和する「転和吟」を創始するなど俳句の伝統性に新しい境地を開いた。

俳句で唱和する「転和吟」を創始するなど俳句の伝統性に新しい境地を開いた。

実業家としては、伊予農業銀行、愛媛県信用組合連合会を設立し、経済界でも活躍をしたが、昭和の恐慌では責任を負い私財を投げ出した。

略歴

明治2(1869)年8月8日	伊予郡西垣生村今出に生まれる。
明治19(1886)年	愛媛県第一中学校が廃校となるため、上京し、共立学校に入学
明治20(1887)年	第一高等中学校に入学
明治24(1891)年	叔父急死のため、退学し今出緋株式会社の社長になる。
明治29(1896)年	夏目漱石、高浜虚子と共に神仙体俳句を創始
明治30(1897)年	伊予農業銀行を設立し頭取となる。今出吟社をつくる。 『ほとゝぎす』に参加、選者となる。
大正2(1913)年	愛媛信用組合連合会を結成し、会長となる。
大正9(1920)年	転和吟を始める。
昭和3(1928)年	銀行の債務返済のため全財産を投げ出し、責任をとる。
昭和6(1931)年	『霽月句集』を刊行する。
昭和8(1933)年	題画吟をはじめ「業余俳諧」を主唱
昭和21(1946)年2月15日	78歳で永眠

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・村上半太郎『霽月句文集』 霽月村上半太郎翁生誕百年祭実行委員会 1978年
- ・鶴村松一『村上霽月』 松山郷土史研究会 1981年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第14巻『村上霽月・松根東洋城・石田波郷』
愛媛県教育会 1986年
- ・今出国勝『垣生のあゆみ』 垣生公民館 1988年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・松山市立子規記念博物館『第25回特別企画展図録 村上霽月－業余俳諧の精神－』
松山市立子規記念博物館 1992年

〈主な収蔵資料〉…(P223, 118~120)

〈ゆかりのある場所〉…(P308, 179~180)